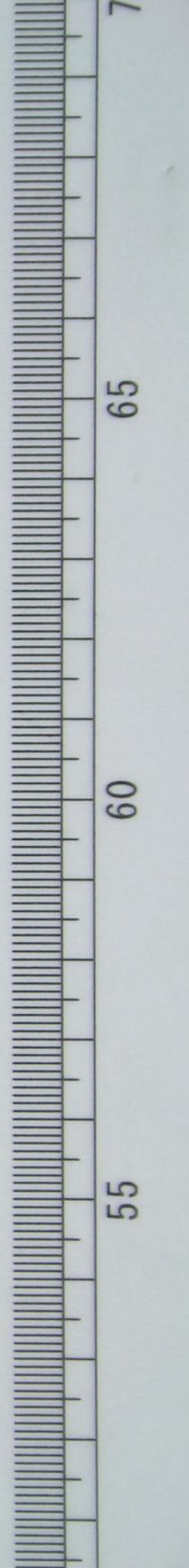


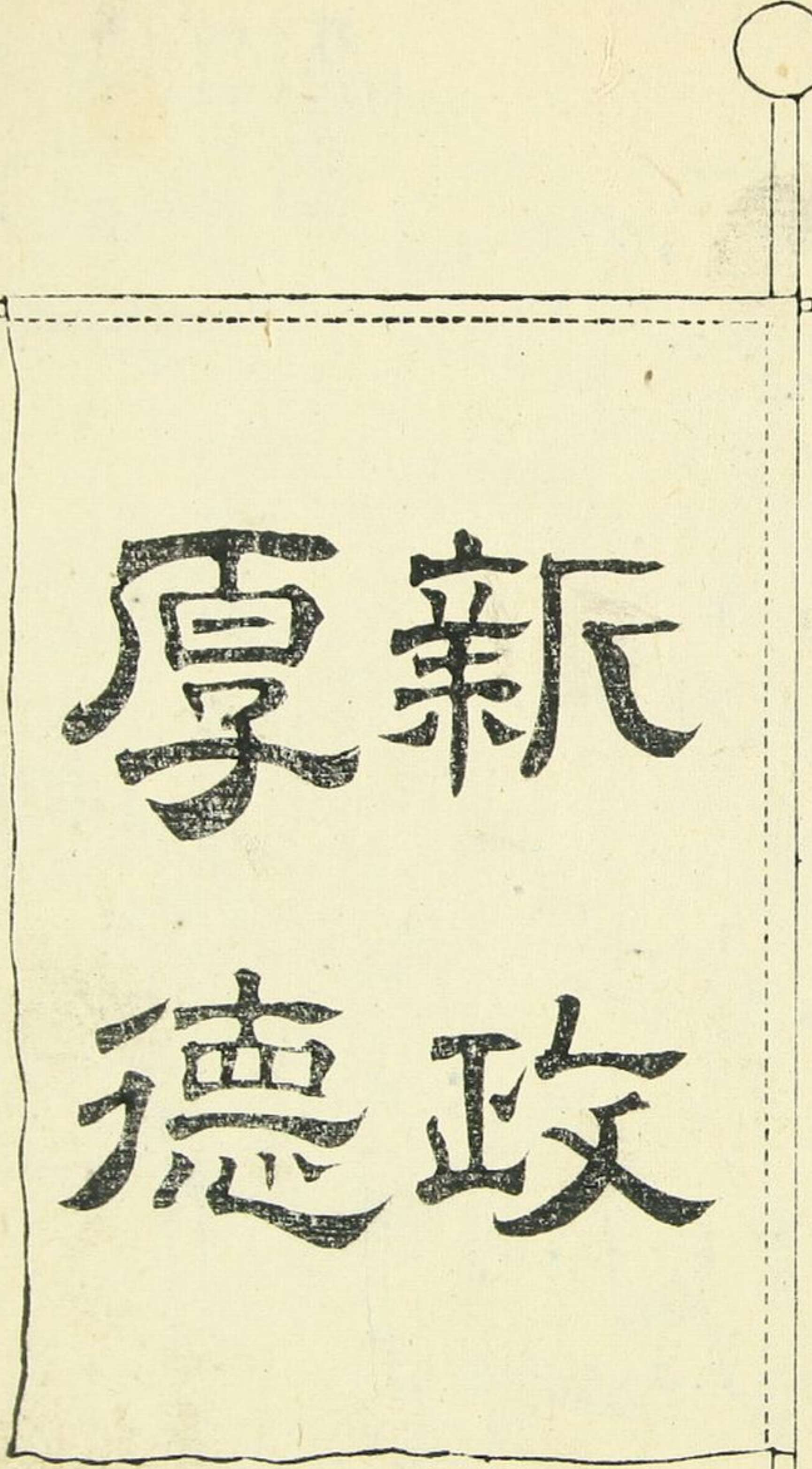


鹿兒嶋戰日記  
二号

政平



五公記  
第二号



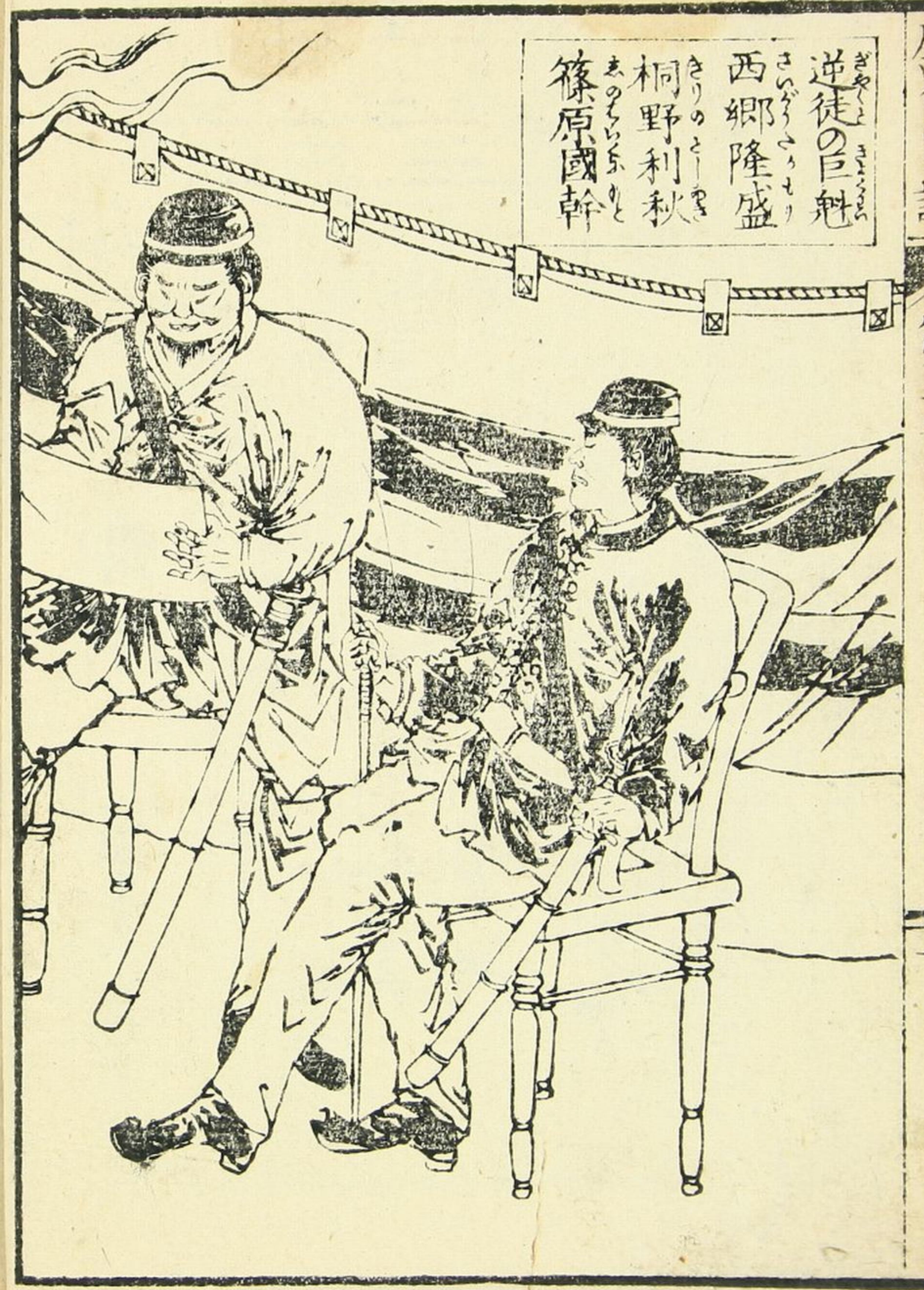
賊徒の旗章

明治十年三月八日御届

AP29  
2

010190510285

48-7878



逆徒の巨魁  
 西郷隆盛  
 桐野利秋  
 篠原國幹

居...  
 言...  
 各...

鹿兒島暴徒征討と一と總督ハ有栖川宮參謀ハ  
野津少將三好少將と定まり熊本への小倉の鎮  
臺兵と繰込と充分に防禦の御手當より廣島  
大坂名古屋の三鎮臺大久保山縣河村の諸公ガ  
督せりと野津陸軍少將ハ四大隊を率ひ三好陸  
軍少將ハ五大隊を率ひ廿日ハ神戸より九州地  
方へ出發し東海丸ハ横濱より軍器二千個と積  
込鎮臺歩兵一大隊並に騎砲隊の士官兵卒と共  
に出帆又三菱の扶桑丸同日午後十二時過ぎ  
某百五十個と積込陸軍會計監督清水川口の二

君ハ出兵御用金と預受同出發同青山火薬庫  
り弾某廿二輛と積出し之も神戸へ向て出帆林  
海軍大佐並に兵器局の官負十四名も神戸へ又  
去十八日大沼陸軍少佐ハ急ぎ仙臺の鎮臺兵營  
へ出立され出張先の軍艦より破烈彈丸七百發  
ろで至急差送らんことを乞り同十九日午後七  
時頃巡查千名警視本署へ揃ひ夫より汽車より  
横濱に至り翌廿日午前西京丸より出帆内五百  
名ハ檜垣権少視之を率ひ警部數十名と共に長  
崎へ五百名ハ三間權少警視之を率ひ同警部數

名と豊後の鶴崎へ出張せしと、弥東京の近衛兵  
廿一日より追々西京へ出立しあり。宇都宮分營  
の一大隊の出京し東京兵備の闕を補ふしを元  
大政官の官負鹿見島縣士族堀口章介の官命よ  
依て九州へ出張し大坂鎮臺砲兵二小隊ハ大砲  
八門を率ひ既し九州路へ出發し鹿見島暴徒ハ  
二千人程三方へ分し一隊ハ豊後地一隊ハ肥前  
天草一隊ハ宮地より押出せしと云

○主上西京御駐蹕被仰出二月廿日

暴徒方より一騎當千の兵ハ二千人程も有や又

官軍方より幸しし募の兵を多く皆熟練の  
兵卒也多夫よ手強く又此度の動搖を聞軍病院  
に居し兵隊も急し勇立我もくと休菜して出  
院せしと云又山縣陸軍卿ハ下の関りて夫々  
軍配よ掛らし由  
○横濱居留の外國人の内より申合せ此度の事  
變まつた軍用金不足なれば本國の銀行へ申遣  
ハ一周旋致し度起き  
廿一日午後一時十五分より谷陸軍少將より電報  
只今熊本戦争に開きしとの傳報あり又廿日の

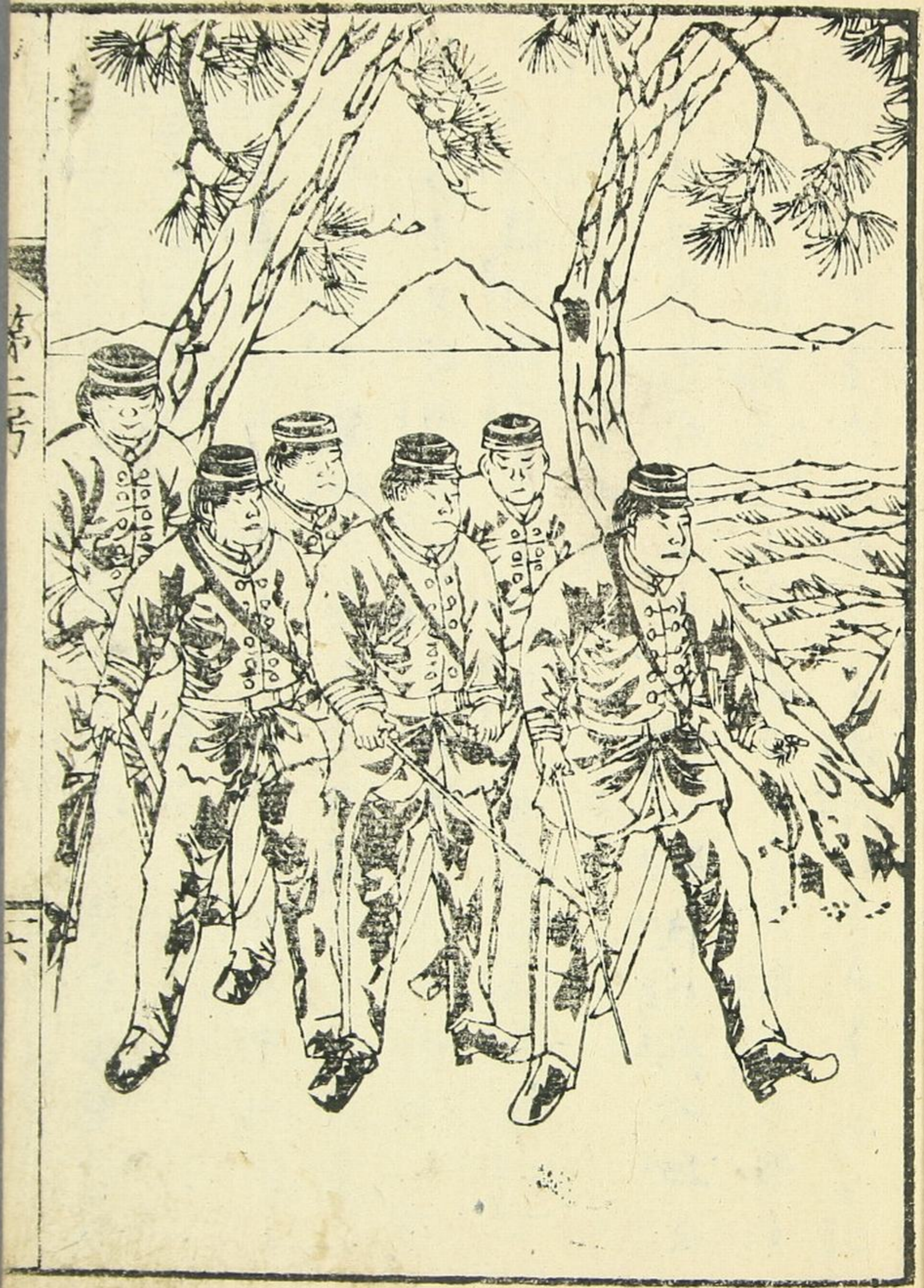
夜鹿見島人銃器を携へ茂木浦へ上陸せしと巡査が十四人ほど捕縛せしたり且又三菱の隅田丸と扶桑丸の御用船とあり國司中佐と迎衛一大隊が乗組んで廿一日横濱と出帆を横濱のカレラフロンといふ蒸気船へも弾薬銃砲を積み込みに出立る

○林軍醫の今般の御用より出立

○今度の開戦の暴徒が一手の熊本へ向ひ一手ハ天草へ向ひ一手の鶴崎へ向ひ此外肥前の地へ入込ども先方の未と手薄く官軍方の堅固

は備へ嚴重の赴き又暴徒方の八代の人民と頻りに應援を頼むれども且之兼引せざる由菅海軍少佐と巡査五人程最早彼地へ進入され軍用金の又々九州へ向け廿日御差出よある横須賀造船所で日進筑波の二艘へ夜通一の急修復して製職掛り昼夜勉強なま

○鹿見島よりの郵便へ昨今開封しよる東京へ届け神奈川県廳よるは是迄當直の外は検査掛一人と探査専務が一人詰らる管下へ怪しき者ある時ハ捕縛して警察所へ達せしき旨



第二号



暴徒上京  
せんとう  
官共  
之と  
遮る

八号

○外務省の渡辺共基君ハ此程の事変ニ付長寄  
寄留の外国人所分のため出立

○佐倉高寄の兩分官より兵隊一兩日中出京ま  
る由是ハ府下警衛の為より西国筋へ向らる

○又野州宇都宮ハ其地奥羽の咽喉ニ当  
り且此程旧庄内の士族總々なる風説中人同

所の兵ハ動ク多と云

○暴徒の内千人程兵器を携へ肥後八代へ押出

其内三名官八代の手前はまぐ末はりしを出張の熊本

縣官より何等の次第はく通行りささるやと尋

これを縣官の出京ニ依り宿割の命を受たりと

答へりば猶又兵器を携へたるハ如何なる訳

あるや海陸軍の外兵器と携ふと得ざるあり

と問まし其答へしハ西郷氏の正しく陸軍大

將の印授と負しこれハ兵器と携ふるの許可せ

る權ありと猶之を伺ひたる上りて返答し

及ふべしと立去りたるも何事も申末らむ

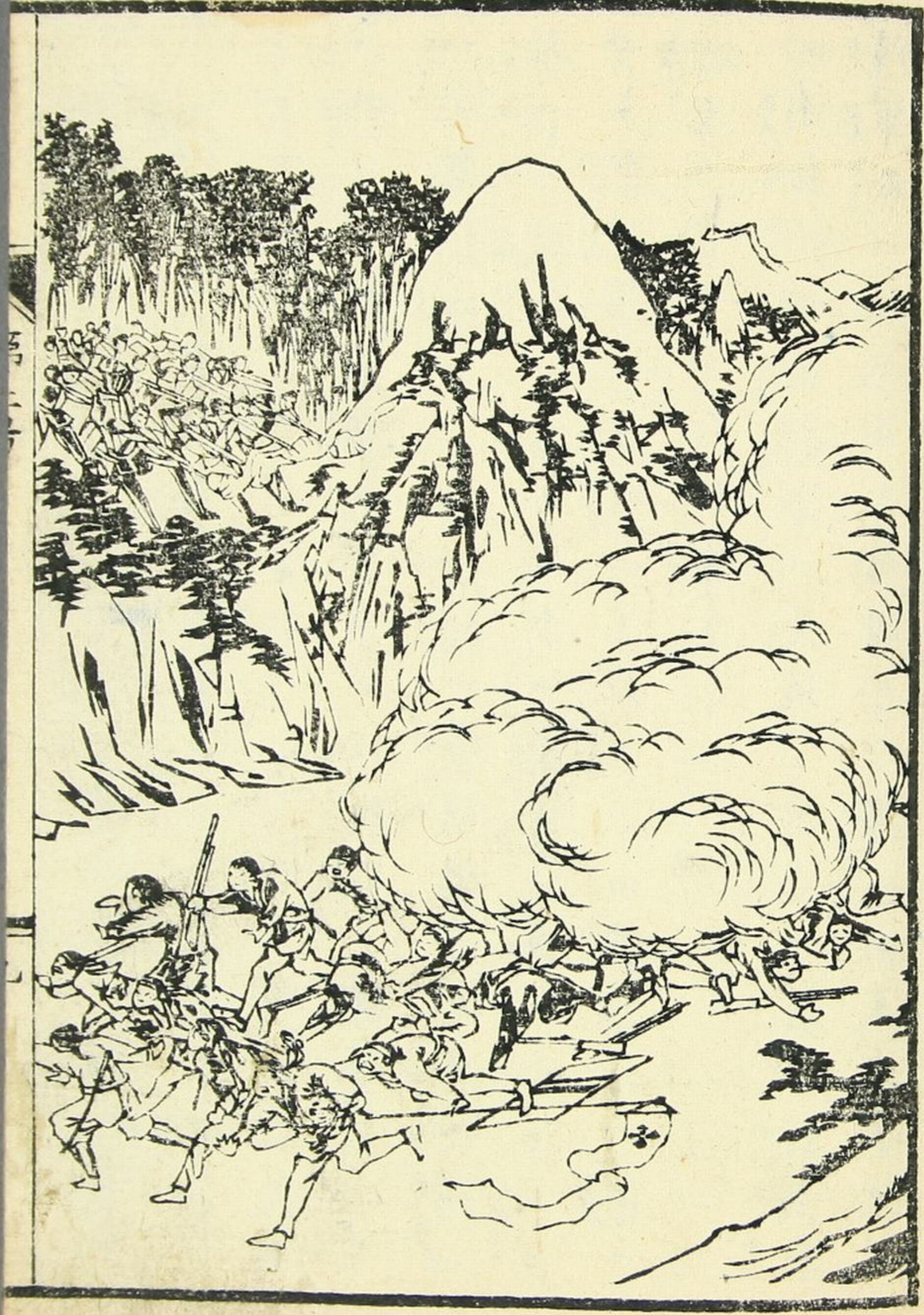
と云

○熊本の戦争の模様より熊本鎮臺ハ城内へ  
擁籠り暴徒ハ三千斗り熊本より南の方薩州街



道は当り川尻香寄の辺と本陣とし是より出張  
して鎮臺を取囲と廿一日の登過は始て戦争あ  
り暴徒はさんぐは敗北して本陣へは帰られを  
熊本の北へ二里ほど離れし植木とゆふ所へ逃  
て屯せ廿二日ふ再び戦争と始めると鎮臺ごと  
く兼て期したる事ゆへ福岡より探出したる  
官兵は暴徒の後へと進み出て鎮臺兵の城内よ  
り挟み撃しを暴徒はたまりかた散乱する所と  
熊本より西へ十八丁ほどなる花園山へ兼て探  
込んで居たる福岡の官兵一同は打出し挟み打

ちて敗走散乱と云又同日西京よりの電報は  
ハ二十三日熊本旧城より戦争のとき賊徒の内  
即死三人重傷七人召取り二十三人より敵十分  
の負けよて一時は散々あり敗走を同日四十  
人ほど植木駅へ押出したるを直に火を掛け官  
軍方へ進んを高瀬と本陣とみるして戦ひ賊も次  
第に人数も増え同日安政橋へも篠原の隊が  
進撃せし官軍よりも烈しく砲発し暴徒の方死  
傷も数多し又二十三日電報より今晩五時よ  
り海陸軍とも鹿兒島の旧城下へ一時は進撃せ



熊本ニカ  
 いて暴徒  
 狭き撃の  
 図



第二号

一 所暴徒の屯集へ多く却て長崎愛媛の両縣下  
へ二道より東へむけ進撃のところが敵へ勢ひな  
しとぞ又二十四日電報に昨夜十二時頃鹿見島  
旧城下へ熊本廣島東京の近衛兵と鎮臺のうち  
一小隊が進み一処賊徒へ愛媛熊本の両縣境へ  
探出し銃砲の音も賊兵の巢窟を乗り取る去る  
がら番兵等と進軍のとれた少しの戦ひあり敵へ  
逃去り官軍より無事と云  
○有栖川征討將軍は大坂へ出立しある故山縣  
陸軍卿は廿三日は福岡まで探込れ大山少捕へ

二十五日東京と出立し大坂へと出張され苗  
守中へ西郷中將が代理とされ第一局長は第四  
局長の井田少將が兼勤とされ有栖川宮へ西  
京より御沙汰なり

征討總督被 仰付候事  
二品親王有栖川熾仁

明治十年二月十九日 太 政 官

と在り  
朕卿ヲ以テ鹿見島縣逆徒征討總督ニ任シ陸  
海一切ノ軍事將官以下黜陟賞罰等テ以テ卿

二委ノ電勉從事速カニ平定ノ功ヲ奏セヨ  
 明治十年二月十九日

奉勅

太政大臣三條實美花押

又行在所の第二号の御達一より

鹿兒島縣下逆徒征討被仰出候ニ付右逆徒  
 各地方へ遁逃或ハ潛匿可致モ難測候奈管内  
 要衝ノ地ハ勿論出入船舶等取締相立嚴密搜  
 索ヲ遂ゲ捕縛可致此旨相達候事

明治十年二月十九日 太政大臣三條實美

此余ハ三号ノ記さん

官許 朝鮮 牛 肉 丸

小袋 六枚二厘五毛  
 中袋 十二枚五厘  
 大袋 二十五枚

此丸は男女小児が食むに宜しき物なり。此丸は朝鮮の牛肉を以て造り、其味は甘く、且つ消化し易し。凡そ胃弱、消化不良、貧血、衰弱、病後、老幼、男女、小児、皆宜し。此丸は、朝鮮の牛肉を以て造り、其味は甘く、且つ消化し易し。凡そ胃弱、消化不良、貧血、衰弱、病後、老幼、男女、小児、皆宜し。此丸は、朝鮮の牛肉を以て造り、其味は甘く、且つ消化し易し。凡そ胃弱、消化不良、貧血、衰弱、病後、老幼、男女、小児、皆宜し。

錦書物店 東京横山町三丁目二番地 辻岡屋支助

